

神経精神科

1. 目的と特徴

- 1) 全人医療を目指す医師に求められる豊かな人間性、優れた見識、温かい共感性、強い忍耐力を涵養する。
- 2) 精神疾患全般についての確実な知識と技術を習得し、実証的データに基づいた合理的な診断と治療が適切に行える臨床能力の高い医師の養成を目指す。
- 3) 身体疾患患者における精神科的諸問題に対処できる医師の養成を目指す。
- 4) チーム医療、各診療科との連携、地域との連携を円滑に進めるためのコーディネーターとしての能力と、豊かなコミュニケーション能力を身につけた医師の養成を目標とする。

東京女子医科大学神経精神科は、1948年に設立された。現在、西A病棟1階に外来、糖尿病センター4階病棟に開放病棟を擁する。豊富な症例に恵まれており、後期臨床研修施設として非常に適した施設である。

2. 指導スタッフ

教授・基幹分野長 西村 勝治
准教授 赤穂 理絵、押淵 英弘

3. 研修施設

基幹施設：東京女子医科大学神経精神科

研修協力施設：JCHO東京新宿メディカルセンター、東京女子医科大学足立医療センター、その他

4. 教育カリキュラム

A：一般目標

- 1) 主要な精神症状、精神症候群を適切に把握することができる。
- 2) 特にプライマリケアにおいても出会う機会の多い精神疾患について、診断と治療を行うことができる。
- 3) 身体疾患においても、心理的社会的な問題が重要な意味をもつことを理解し、適切に対応することができる。
- 4) 精神科面接技法と精神療法を身につける。
- 5) 医師自身の心身の健康を保つ。
- 6) リエゾン・コンサルテーション精神医学を通じて、他科スタッフの抱きやすい精神科医療についてのネガティブな先入観を軽減することができる。

B：行動目標

- 1) 主要な精神症状を適切に把握できる。
- 2) 主要な精神症候群を適切に把握できる。
- 3) 精神医学的診断の方法、手順を理解し、実行できる。
- 4) 主要な心理検査の目的、手順、限界などを理解し、施行できる。
- 5) 主要な精神疾患について、症状、検査所見、病態・病因、診断、治療などの知識を身につける。
- 6) プライマリケアにおいても出会う機会の多い精神疾患(うつ病性障害、不安障害、身体表現性障害、睡眠障害、認知症、せん妄など)について確実な診断と治療を行うことができる。
- 7) がん緩和ケアの基本を理解し、実行できる。

- 8) 精神運動興奮状態や自殺の危険性の高い症例への対応など、精神科において救急を要する事態に診断と治療的介入を行うことができる。
- 9) 各種向精神薬の適応、使用方法、効果と副作用、薬物相互作用などについて理解し、適切な薬物療法を行うことができる。
- 10) 支持的精神療法を理解し、実行できる。
- 11) リエゾン・コンサルテーションサービスの概略を習得し、実行できる。
- 12) 身体疾患をめぐる心理社会的問題について理解し、リエゾンサービスに応用できる。
- 13) 精神科入院治療の適応を適切に判断できる。
- 14) 精神保健福祉法の概略を理解し、適切に運用できる。
- 15) チーム医療の重要性と、チーム内の適切なコミュニケーションの方法を理解し、実行できる。
- 16) 家族支援の具体的な方策を理解し、実践できる。
- 17) 地域精神保健福祉システムについての適切な知識を持つ。
- 18) 社会療法の基本を理解し、適切に施行できる。
- 19) 医師自身の心身の健康を保つためのストレス対処方法を実行できる。
- 20) 学会に参加し、症例報告や研究発表を行い、論文を投稿する。
- 21) 上記全てについて、下級後期臨床研修医を指導できる。
- 22) 精神保健指定医資格を取得する。
- 23) 日本精神神経学会専門医資格を取得する。

C：年次別研修スケジュールと研修内容概略

| | |
|---------|---|
| 研修1～2年次 | 入院患者主治医、予診、初診陪席、リエゾン陪診、研究補助 |
| 研修3～4年次 | 精神科病院派遣、総合病院（精神科・心療内科）派遣、精神保健指定医ケースレポート作成、日本精神神経学会専門医ケースレポート作成、研究 |
| 研修5年次 | 病棟チーフレジデント、外来診療、ケースレポート提出、論文作成、研修のまとめ |

D：週間予定

| | |
|-----|---|
| 月曜日 | 8時30分～教授回診 13時～心理教育 14時45分～リエゾンカンファ 15時30分～症例検討会 16時～医局会 医局会終了後に下記： 抄読会、薬品情報提供、医局研究情報交換会、研究発表 |
| 火曜日 | 13時30分～多職種合同連絡会・症例検討会(新患) |

E：評価

医局研修指導スタッフ、研究チームのリーダーから逐次形成的評価を受ける。評価内容は、随時、教授・基幹分野長に報告され、年次の移行期に教授・基幹分野長が点検と面接を行い、指導的评价が行われる。精神保健指定医、日本精神神経学会専門医のケースレポートの作成、申請を通して評価される。

5. 後期臨床研修修了後の進路

後期臨床研修修了後、東京女子医科大学神経精神科に就職を希望するものは、神経精神科教授・基幹分野長と相談し、助教として採用も可能。

6. 学位

研究論文が掲載された後、教授・講座主任の承認のもと医学博士の学位申請が可能である。臨床大学院生は、博士課程の修了時に医学博士号が授与される。

7. 指定医、専門医

当科は以下、資格取得可能な研修施設に認定されている。

- ・精神保健指定医（厚生労働省）
- ・日本精神神経学会専門医（№213084 <https://www.jspn.or.jp>）
- ・日本総合病院精神医学会専門医（№58 <http://psy.umin.ac.jp>）

8. 問い合わせ先

162-8666 東京都新宿区河田町8-1

東京女子医科大学病院神経精神科

医局長 白川 美千雄（しらかわ みちお）

TEL：03-3353-8111（内線 33205）

FAX：03-3351-8979

e-mail: shirakawa.michio@twmu.ac.jp

東京女子医科大学病院神経精神科ホームページ

<http://www.twmu.ac.jp/PSY/>